

第5回会合における主な意見

令和6年5月27日
事 務 局

「論点整理骨子（案）」に関する主な意見

<想定ユースケース及びオール光ネットワークの発展イメージに関する意見>

- 波長数の拡大や通信速度の向上する一方で、消費電力が上がることは望ましくない。このため、2040年頃に向けても低消費電力化への対応が併せて必要であることをメッセージとしてより明確にすべき。【大柴主任代理】
- 第4回会合の資料では、共通基盤技術に関する記述と「想定するオール光ネットワークの発展イメージ」がセットになっていたためわかりやすかったが、論点整理骨子（案）のように別のページに書かれてしまうと、発展イメージだけが一人歩きする可能性もあるため、共通基盤技術の検討に関するものと言うことが分かるような記載とすべき。【原井構成員】
- 光トランシーバへの対応について、「相互運用性」という言葉よりも「利用して」くらいの言葉の方が適切ではないか。【山中主任】

<技術開発の基本的な考え方に関する意見>

- 「技術開発の基本的な考え方」として、開発した技術が早く利用されることが最も重要ではないか。このため、「開発した技術が早期に利用され、それが実際に広く利用される」といった表現にすべき。【山中主任・長谷川構成員】

<オール光ネットワークの全体アーキテクチャの策定に関する意見>

- 全体的なアーキテクチャについて、これが広く共通的な理解として策定され、また、その後も総務省等から研究について世界に広く発信してもらい、アーキテクチャが進化していくことを期待する。【山中主任】

<業界共通的に取り組むべき個別の課題及び開発項目に関する意見>

- 取り組むべき課題と開発すべき項目の間で、「ユーザー」、「利用者」、「事業者」などの言葉があるが、それぞれの対応関係をわかりやすく整理してほしい。【長谷川構成員】

＜技術開発と並行した普及方策に関する意見＞

- 共通基盤技術の利用のプロモーションを進めていく上では、大企業だけでなく事業としての伸びしろや野心のあるベンチャー、スタートアップさらには、学生層なども巻き込んでいくことが重要。【長谷川構成員】
- 大企業だけでなく、ベンチャー、学生なども巻き込んでプロモーションを行うべきであり、特にスタートアップに対する開かれた産業環境が起爆剤になると考えられる。【立本構成員】
- 開発成果の導入効果を可視化していくことについて、特に、多様な利用者に飛びついてもらうことを意識すれば、可能な限りシンプルに伝えることが重要。
- オール光ネットワークの普及拡大を社会的な要請として捉えて、事業者はもちろんのこと、総務省、大学などが支援していくことが求められる。【長谷川構成員】
- 国費を用いて行われるものであることから、産業波及効果を作り、広く多くの方が利用してメリットを享受できるようにすべき。【山中主任】
- 意見交換の場について、オール光ネットワークにおけるコア技術の開発に参加している人が加わり、事業者、アカデミアを主体に仲間作り参加者を増やしていくような取組みになると良い。【大柴主任代理】